

今回は、第3回「さくら塾」の報告です。

◇ 中部大学の大橋岳先生から、野生チンパンジーのお話をうかがいました！

日時： 2020年10月4日(日) 13:00~15:00

場所： 関高等学校教室

講師： 大橋岳先生 中部大学人文学部講師(霊長類学)

演題： 「野生チンパンジーの生態と保全」

参加者： 生徒希望者12名

内容： ギニアヤリベリア、コートジボアールに生息する野生チンパンジーの生態、およびその保全の現状についてのお話をうかがった。そのあと、現在、関高生が研究を行っているヒトとチンパンジーのナッツ割り行動の比較研究に関するコメントをいただき、参加者全員でワークショップを行った。

◇ 生徒の感想



■今日の講座では、チンパンジーの生息について深く知ることができ、楽しかったです。

チンパンジーの世界にも文化や社会性があるということ、それによって毛織いや道具の使い方に違いが出ることなどたくさん学ぶことができました。

また絶滅危惧種であるチンパンジーの生息地、熱帯雨林が人間の開発によって危機に瀕していることを知りました。グローバル化が、決してよいことだけを招くわけではないと知りとても衝撃を受けました。

何が持続可能なかを考えて活動することの大切さに気がつくことができました。



■僕は今日の講義でチンパンジーのことが広く学べたと思います。ナッツ割りという行動に着目していただけて、チンパンジーの生態についてはほとんど無知だと痛感しました。特に、チンパンジーは果物を食べる割合が多いことは初めて知りました。

親の関与については、霊長類研究所の動画を見て気づいた、親の行動を子供が真似ているということが正しいとわかったので良かったです。親が選んでいる石が子どもが後々選ぶ石にも影響しているんじゃないかと思いました。

一方、野生チンパンジーをとりまく現状や、環境保全の話聞いて、ヒトと共通の祖先から進化した「進化の隣人」チンパンジーを守っていかなければならないと感じました。



写真上：講義の様子 写真中：チンパンジーの用いた石器(実物) 写真下：ワークショップの様子